

## 会員の声

## 丑年に生まれて

岡本 甚一（蒲生）

私は、7回目の丑年を迎えました。小学校低学年の時は戦争の最中で大変怖い思いをしました。もう戦争は嫌、早く終戦になればと思っていました折、敗戦となりました。生活用品等不足している中、両親は「親より子まし」の思いで私たちを育ててくれました。公務員等奉職し、退職と同時にシルバー人材センターを紹介して頂き早速加入しました。数名で草刈等多くの仕事や、人の集まりが高齢社会に必要な組織と感じました。会員仲間の「共助」精神で本会及び会員互助会の「働悠会」が益々発展することを願っております。私は体が弱くて常に本会の行事等に参加出来ていないことを残念に思います。今後は和牛の如く粘り強く精進し余生を楽しみたいと考えていますので今後共宜しくお願いいたします。

皆様方におかれましてはコロナ禍に負けず益々お元気でお過ごしください。

## 京丹波町に移り住んで

石山 斗志男（安栖里）

自然豊かな京丹波に移り住んで、早3年と5ヶ月過ぎました。やっとなじんできたところです。集落の皆さんに早くなじむには、なるべく集会に参加し、そして道で人に会えば必ず挨拶をする事と心掛けました。そうする事で皆の顔と名前を少しずつ覚えめました。集落の人は皆さん親切で優しいです。それにしても集会が多くてびっくりしましたが。

憧れの家庭菜園もはじめました。収穫は少しですが自分で作った野菜はおいしいです。

シルバー人材センターにも入会して丸三年、体はきついですがもう少し働こうと思います。

集落の皆さん、シルバー人材センターの皆さん、これからも健康に気を付けて仲良くやっていしましょう。よろしく願います。

## 私とシルバー人材センターでの作業近況で思うこと

竹内 伸二（グリーンハイツ）

今年72歳になり、今現在シルバー人材センターの会員としてお世話になって、早6年目を迎えようとしています。シルバー人材センターに入会するまでは衛生業務の仕事をしておりましたので、今同じような仕事をしていて感じることは、いらなくなったごみにしても「分ければ資源、捨てればごみ」の言葉どおり、ごみでも再生に分ければ使いみちがあり、人々の助けになったりするので、作業をしていてもありがたいことと感謝をする気持ちで頑張っています。また再生されないごみでも処理場に出し、処理されれば環境美化につながり、人々の役に立つ事だと感じております。人々の生活や仕事においても人それぞれで個性があり、個人差があるのでお互いに励まし合って助け合っていくことが大切なことだと思います。会員同士で持ちつ持たれず健康に留意しながら頑張りましょう。今世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大していて、不安な日々ですが、一日も早く終息を迎え世界中、日本中の人々が元気に暮らせる幸せな日々が戻りますよう皆様の健康をお祈り申し上げます。



互助会京丹波シルバー働悠会 グラウンド・ゴルフ大会